

「日本ユニセフ協会」One Minute Video “セミナー②” 2010年11月23日（火・祭）

学習目標	1 分間ビデオから学ぶ国際理解	担 当	東海大学 文学部広報メディア 五嶋 駿河台大学 情報メディア学部 間島
使用副教材	ユニセフハウス展示 ビデオカメラ、編集 PC	場 所	ユニセフハウス（日本ユニセフ協会本部）
時間	指導事項区分	学習内容	備考
10:00 30分	『プロローグ』 5分 映像上映 10分 今日の流れ 15分	参加者集合（ユニセフハウス） 【自己紹介】 五嶋のプロフィールと現在の活動を含んだ自己紹介 【アムステルダムでの映像祭で入賞、招聘】 *アムステルダム “One Minute Video” 映像祭への参加 *世界の若者達 100 名が終結、映像制作のワークショップ * “One Minute Video” 映像祭入賞作品 【 “One Minute Video 制作” という授業】 1) プリ・プロダクション（発想、企画、絵コンテ） 発想したメッセージを映像表現する実践 2) プロダクション（撮影） 3名のチームで協力して撮影を行う 3) ポスト・プロダクション（編集、仕上げ） 撮影素材の映像編集、文字情報、音楽選曲 4) ビューイング（視聴、評価） メッセージは表現仕切れているか？ 受けてとして客観的な評価	<資料> プロフィール 雑誌「TOKAI」記事 映像祭資料 今日の流れシート プロダクション・ フロー
10:30	『プリ・プロダクション』 （企画立案） 《105分》	（1）プロダクションチームの組み換え *3名 x 3～4チーム （2）企画絵コンテシートの配布・説明 *一人一枚配布で全員に考え作成して頂きます。 （3）ユニセフハウス 1階 2階の展示の視察・ロケハン *今回の参加者は既にユニセフハウス展示内容は熟知している事を前提に説明・案内は省略とします。 （4）企画・絵コンテの作成	企画絵コンテ配布
12:30	《30分》	<昼食>もちろん、班別昼食で撮影打合せを行う	弁当
1:00	『プロダクション』 （撮影） 《90分》	（1）撮影機材の配布、説明 （2）撮影 *カメラワーク、アングル、レンズサイズ、レンズと光源、の説明。 *マイクと音源、距離、SE効果、BGMの説明。	撮影機材配布 Victor Everio

		<p>*捨てカット分の余分な秒数</p> <p>*クレジットの録音</p> <p>*撮影後の再生確認</p>	
2:30	『ポスト・プロダクション』 (編集・仕上げ) 《90分》	<p>(1) 撮影素材の Mac Book への取り込み (キャプチャー)</p> <p>(2) 映像編集、文字編集</p> <p>(3) オーディオ編集</p> <p>(4) 選曲</p> <p>(5) 完成</p>	<p>映像編集 PC</p> <p>Mac Book</p> <p>映像ソフト I Movie</p> <p>BGMはフリー 著作権CDを使用</p>
4:00	『ビューイング』(映像上映) 《30分》	<p>(1) 完成作品の上映、試写 *大きなスクリーンで上映</p> <p>(2) ビューイング 試写しながら、その作品を読み解く * 「読み解き書き込みシート」を全員に配布し、 作品毎に簡単な問に答え記入する。</p> <p>① この作品の、メッセージは何だと思うか？</p> <p>② この作品の、良かった点</p> <p>③ この作品の、工夫すると良い点</p> <p>*書き込んだシートは無記名で回収し、部屋の壁にセロテープで留めて、帰りがけに読んで帰る。</p>	<p>読み解きシートの 配布</p>
4:30	『まとめ』 《15分》	<p>【まとめ】</p> <p>世界の現状は日々メディアによって報道されている。しかし、それは、自分から遠く離れた「メディア劇場」で描かれている非現実的な事実としか捉えていないのが日本の若者だろう！</p> <p>1) 世界の現状を学習する</p> <p>2) 自分のメッセージを考え創り発信する</p> <p>3) 「言語表現」から超えた「映像表現」で国境を越えた異言語世界にメッセージを発信する。</p> <p>【子供たちに必要なメディア・リテラシー】</p> <p>様々な情報に翻弄されない子供たち、若者達の育成は、その情報に対する単なる批判的な姿勢を育むだけでは無く、その情報一つ一つの良し悪しを判断する能力育成が必須である。</p> <p>美味しい食物を本当に美味しいと感じられ、不味い物は吐き出す事の出来る子供たちの育成こそ、健全な教育現場であり健全な家庭環境であるとも言える。</p>	
4:45	質疑応答		
5:00		<お疲れ様でした>	